

「裁判官になってみたい」と思うとき

「非常勤裁判官として初出勤した日のこと、秋の夕日が差し込む裁判官室でひとり静かに事件記録を読んでいた。電話もかかってこないので思考を中断されることもなく集中できる。こういう生活も悪くないな……。そうかといって孤独ではない。法廷から帰ってきた裁判官や書記官にいろんなことを相談できる。一緒にお酒を飲む機会も多い。

せっかく裁判官にもなれる資格を持っているのだから、このさき裁判官をやってみたくなった。」

.....

こんな任官動機の一部を語ってくれた河野匡志さんが4月から裁判官になる。3月8日、東弁の会長、副会長、任官推進委員会などみんなで激励会を開いた。同じく東弁から任官した中野智明さん（東京家裁）、水野邦夫さん（東京地裁）、城内和昭さん（千葉地裁）も駆けつけてくれた。弁護士任官者もだんだんと増え、裁判所内の様子や仕事の仕方をいろいろアドバイスしてくれる。任官後も、毎週1回のゴルフを欠かさず9年も勤めているという話も紹介され、裁判官のイメージを変えつつあることを感じた。初期の任官者に比べたら、ずいぶん不安なく裁判所へ行けるようになったものだ。

しかし、激励される方がひとりではやはり寂しい。

週に1日だけの非常勤裁判官をやってみようとか、通常任官を検討してみたいという方は、遠慮なく下記まで連絡下さい。

一度、真剣に考えてみませんか。応援します。

（弁護士任官推進委員会委員 中村 雅人）

■問い合わせ先：総務課（担当 河村） TEL. 03-3581-2204